

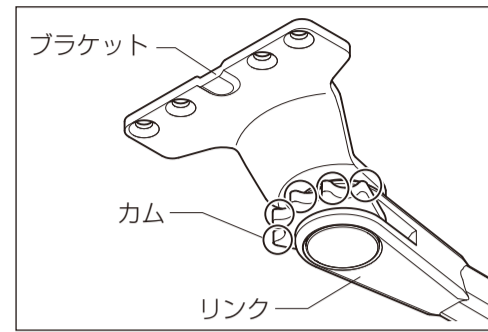
LIXIL バックチェック機構付ドアクローザ

取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方へお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

- このドアクローザは、室内側に取付けます。
- 本説明書は、外観右吊元用で説明してあります。左吊元の場合も、同じ要領で取付けてください。
- ストップ機構の摺動箇所につき、カムの一部（右図○印部）に塗膜の削れる箇所が発生しますが、性能に影響はありません。また、製造工程内で作動検査を行っているため、お届け時に発生している場合もございますが、問題なくご使用いただけます。
- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。



■部品一覧表

本体	アーム	本体ブラケット
ブラケットリンク	キャップ	アーム取付けボルト
六角ボルトM5×12 (3点セムス)		
アーム連結ボルト		
六角ボルトM5×12 (3点セムス)		

▲注意 …取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

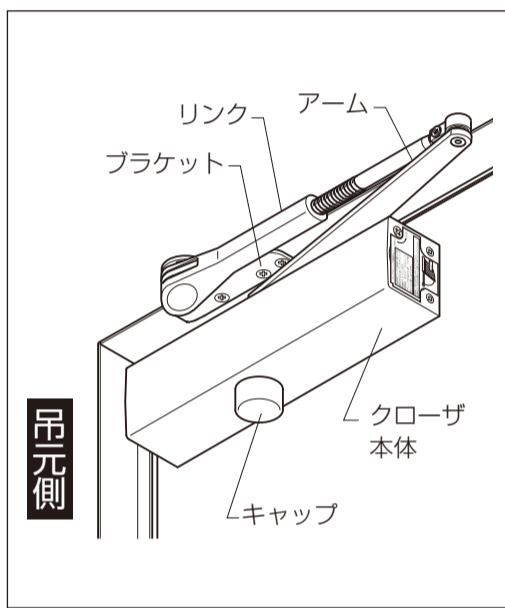
▲注意

- ドアクローザの落下・故障の原因になりますので、下記事項をお守りください。
- ・各種取付けねじは、2.0N・m{20kgf・cm}以上のトルクで必ず締付けてください。
- ・各種取付けねじは、付属のねじを所定個所に使用してください。
- ・固着剤付きのねじは、2度締めしたり、水に触れたものは使用しないでください。
- 各速度調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。ねじをゆるめすぎるとドアが急激に閉まり、思わぬケガをするおそれがあります。

■ねじ一覧表

①	②	③	④
本体ブラケット取付けねじ	本体ブラケット取付けねじ	ブラケット取付けねじ	本体固定ねじ
丸皿タッピンねじ φ5×25	丸皿小ねじ M5×12 (固着剤付き)	丸皿小ねじ M5×16 (固着剤付き)	丸皿小ねじ M5×12 (固着剤付き)
4本	4本	4本	2本

■各部名称



■取付け順序

1 本体ブラケットの取付け

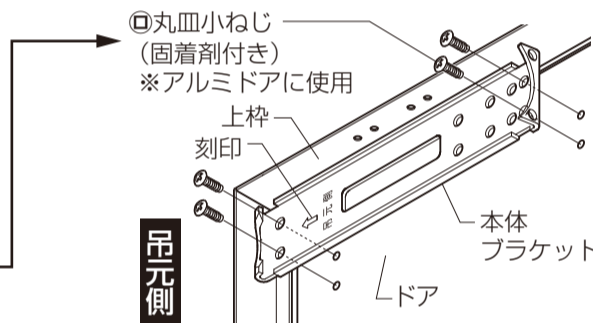
●本体ブラケットの刻印(◁)を吊元側に向け、ドアに、しっかりと取付けます。

▲注意

●本体ブラケット止めねじは必ず締付けてください。本体ブラケット止めねじの締付けがゆるいと、本体がぐらつき落下・故障の原因になります。

■本体ブラケット止めねじ

- ①丸皿小ねじM5×12(固着剤付き)
- ①丸皿タッピンねじφ5×25 ※フラッシュドアに使用



2 ブラケットの取付け

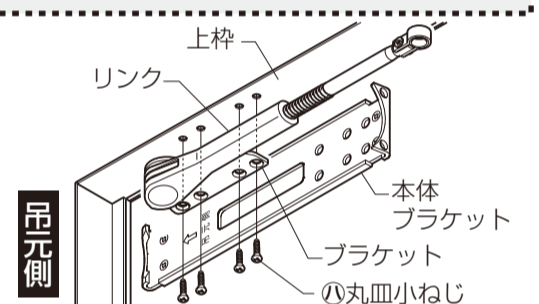
●ブラケットを上枠に、しっかりと取付けます。

▲注意

●ブラケット止めねじは必ず締付けてください。ブラケット止めねじの締付けがゆるいと、ブラケットリンクがぐらつき、故障の原因になります。

■ブラケット止めねじ

- ①丸皿小ねじM5×16 (固着剤付き)

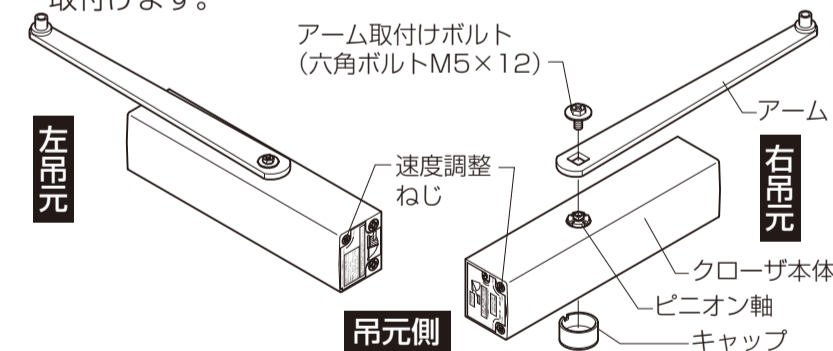


3 アームの取付け

- ①クローザ本体の速度調整ねじを吊元側に向けます。
- ②ピニオン軸にアームを下図の向きではめ、アーム取付けボルトをしっかりと締付けます。
- ③キャップを下から取付けます。

お願い

※アームはめ込み時、ハンマーなどでたたかないでください。たたくと破損や油もれの原因になります。
 ※ピニオン軸とアームのはめ込みが固い場合は、アーム取付けボルトを締込んでアームをはめ込んでください。
 ※アーム取付けボルトの締付けがゆるいと、アームが外れ故障の原因になります。

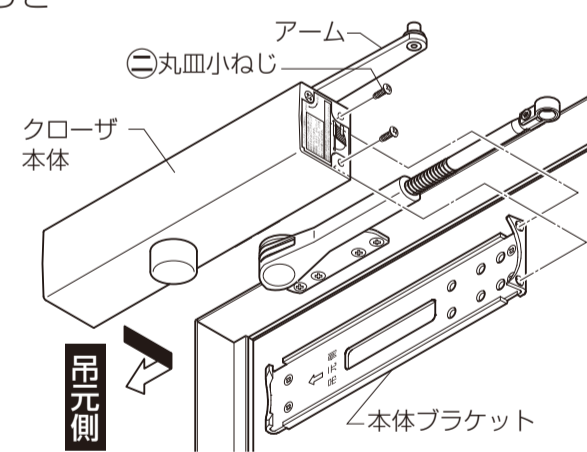


4 クローザ本体の取付け

- ①クローザ本体の速度調整ねじを吊元側に向けます。
- ②クローザ本体を右図のようにスライドさせて、本体ブラケットにはめ合わせます。
- ③戸先側から、しっかりと固定します。

■本体固定ねじ

- ①丸皿小ねじM5×12 (固着剤付き)

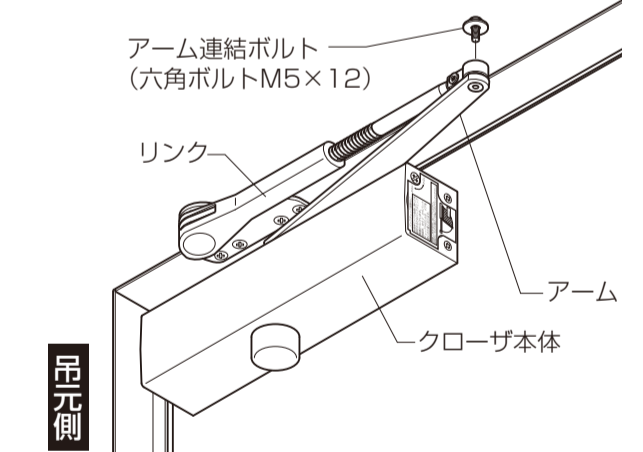


5 アームの連結

●リンク先端の穴にアーム先端のピンを差込み、アーム連結ボルトを、しっかりと締付けます。

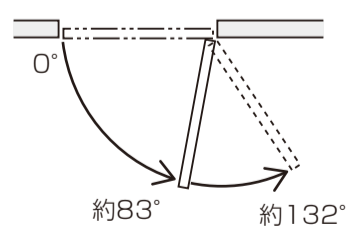
お願い

※アーム連結ボルトは必ず締付けてください。アーム連結ボルトの締付けがゆるいと、アームの連結が外れ故障の原因になります。



■ストップ位置の調整

ストップ角度が約83°と約132°の2ヶ所にあらかじめ固定されています。それ以外の角度の設定はできません。
 ※商品により角度は若干異なります。



■ドア（扉）閉じ速度の調整

1 閉じ速度の調整

- ①閉じ速度は、吊元側側面にある第1速度区間および第2速度区間、それぞれ個別の調整ねじで行います。
- ②速度調整ねじを回転させます。適正速度は、ドアの閉じ始めから閉じ終わりまで5~8秒位です。

お願い

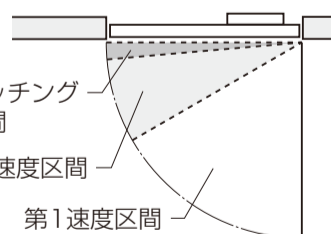
※調整ねじは、電動工具を使用して回転させないでください。調整ねじが破損することがあります。
 ※調整ねじは、遅くなる方から早くなる方へ調整してください。
 ※調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。油もれを起こし、正常に機能しなくなることがあります。

2 ラッチングアクションの調整

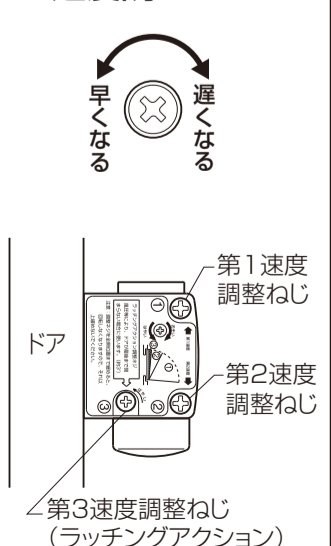
※ラッチングアクションは、ドアが閉鎖位置直前(約3°)まで来た時点でドアを素早く閉める機能です。風が強くドアが閉まりきらない、ドアを建付け状態にてドアが閉りきらない場合などに使用します。
 ●調整ねじを反時計方向に回転すると、素早くドアが閉まります。

▲注意

●各速度調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。ねじをゆるめすぎるとドアが急激に閉まり、思わぬケガをするおそれがあります。



■速度調整ねじ



■バックチェック強さの調整

- ①強風などでドアが急激に開くのを緩和するため、バックチェック機構が付いています。開扉時、約70°からバックチェック機能がはたらき、ドアを開くのが重くなります。
- ②吊元側と反対側の側面にある調整ねじを、回転させて調整してください。右に回すとドアを開ける力が重くなります。左に回すと弱くなります。

お願い

※バックチェック調整ねじは、電動工具を使用して回転させないでください。バックチェック調整ねじが破損することがあります。
 ※バックチェック調整ねじは、左右に1回転以上回転させないでください。強くなる方向に1回以上回してバックチェックを繰返し使用すると、ドア本体・枠に力が加わり製品に変形がおきる場合があります。弱くなる方向に1回転以上回すと油もれを起し、正常に機能しなくなることがあります。

